

平成25年度 決算特集号



駐車場や園内などを整備した八代ふるさと公園

平成25年度決算が9月議会で承認されました。

一般会計の決算内容を中心に「決算特集号」として紹介します。

CONTENTS(内容)

決算の概要	2~3
合併特例債を活用した事業	4~5
市の基金(貯金)と市債(借金)	6
財政健全化判断比率など	7
平成25年度の主な事業	8

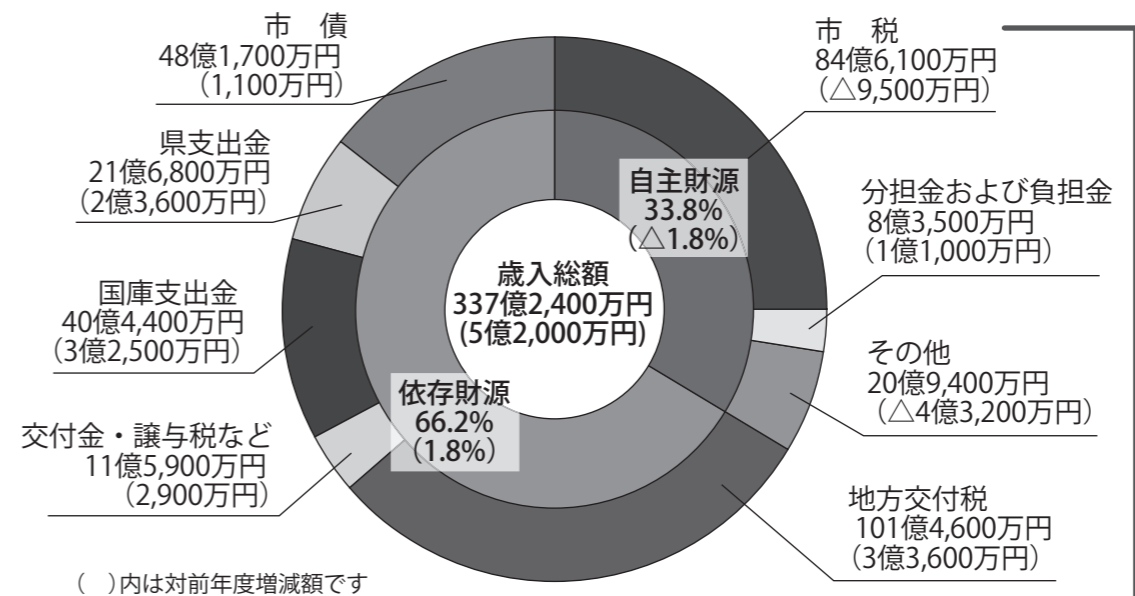
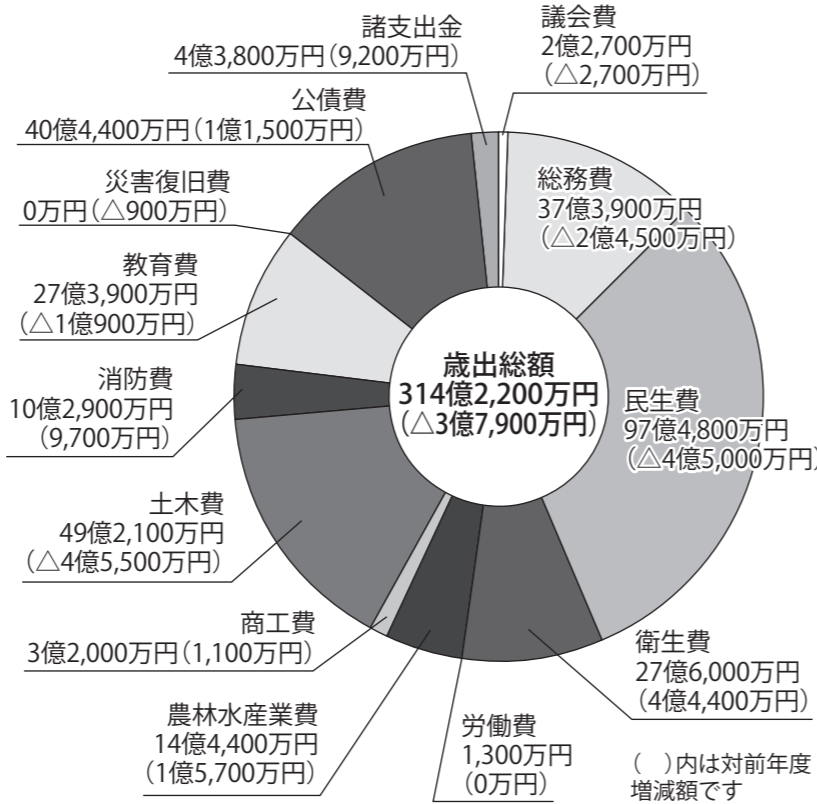
概要 決算

【一般会計歳出総額】314億2,200万円(前年度比：3億7,900万円減)

【一般会計歳入総額】337億2,400万円(前年度比：5億2,000万円増)

歳出を市民1人当たり換算すると…
(H26.3月末現在の人口71,132人をもとにしています。)

項目	金額
民生費	137千円
土木費	69千円
公債費	57千円
総務費	53千円
衛生費	39千円
教育費	38千円
その他	49千円
合計	442千円

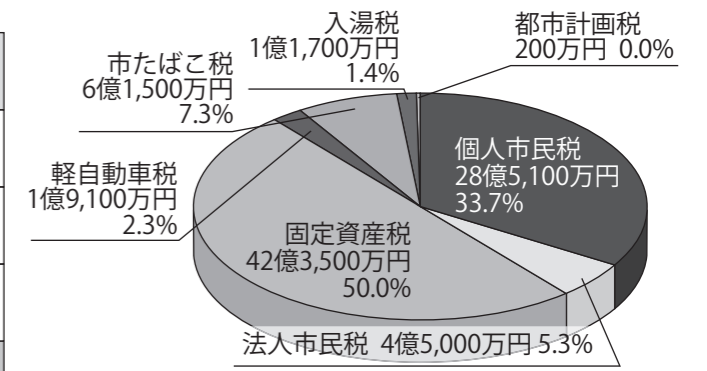


平成25年度決算が、9月市議会に提出された。市民のみなさんに納税の負担を減らすため、市税の引き下げや、市債の発行抑制などを実施する。また、市民の生活の向上を図るため、民生費を増やすなど、歳入・歳出のバランスを調整する。このように、市民のみなさんの生活に貢献するよう努める。平成25年度決算の概要を公表する。市民のみなさんの生活に貢献するよう努める。平成25年度決算の概要を公表する。市民のみなさんの生活に貢献するよう努める。

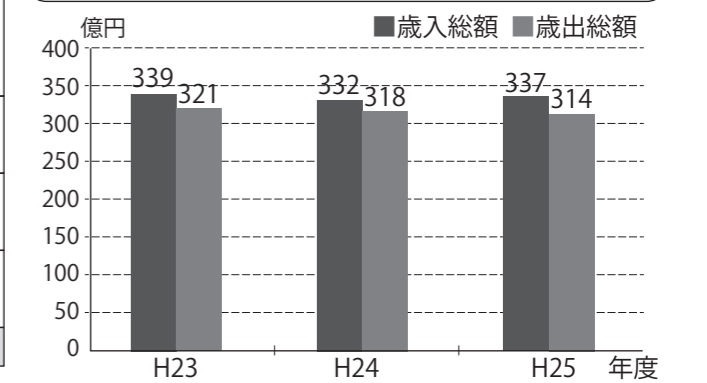
歳入を市民1人当たり換算すると…
(H26.3月末現在の人口71,132人をもとにしています。)

項目	金額
自主財源	160千円
市税	119千円
分担金および負担金	12千円
その他	29千円
依存財源	314千円
地方交付税	143千円
交付金・譲与税など	16千円
国県支出金	87千円
市債	68千円
合計	474千円

市税収入の内訳



歳入・歳出総額の推移



【歳入】の概要
歳入の内訳を主な目的別に見てみましょう。

●民生費：障がい者、高齢者、生活保護や少子化対策などの経費が97億4,800万円(△4億5,000万円)と前年度より減少しました。障がい者、高齢者、生活保護や少子化対策などの経費が97億4,800万円(△4億5,000万円)と前年度より減少しました。

●土木費：砂原橋架替事業をはじめ、道路新設改良事業や、石和温泉駅周辺整備事業、公園維持管理事業を行いました。前年度と比較すると4億5,500万円減少しました。

●教育費：学校施設の整備として、公立中学校増築・改修事業を中心として実施しました。前年度と比較すると1億900万円減少しました。

●衛生費：御坂、境川浄水場建設関連事業が継続して行われており、前年度と同様に一般会計から出資しています。前年度と比較すると4億4,400万円増加しました。

●農林水産業費：土地改良事業など、農業基盤整備や、過疎対策事業を活用した地域間交流促進事業などを行いました。前年度と比較すると1億5,700万円増加しました。

●公債費：発行額の増額により臨時財政対策債および合併特別債の元利償還金が増額し、前年度と比較すると1億1,500万円増加しました。

●諸支出金：財政調整基金へ4億1,000万円積み立てた。前年度と比較すると9千200万円増加しました。

公営企業会計の収支状況

公営企業会計は、特別会計と同じように特定の事業を行う場合に一般会計と区分して経理を行う会計で、水道事業など2会計です。資本的収入額が資本的支出額に不足する額については、補てん財源で措置しました。

会計	区分	決算額
水道事業会計	収益的	収入 15億 3,618万円
	支出	15億 3,003万円
	資本的	収入 22億 4,037万円
	支出	26億 3,220万円
春日居地区温泉給湯事業会計	収益的	収入 7,513万円
	支出	6,816万円
	資本的	収入 0万円
	支出	677万円

収益的収入および支出：一事業年度の企業の経営活動に伴い発生する収益と、それに対応する費用
資本的収入および支出：企業の将来の経営活動に備えて行う建設改良費や企業債償還金などの支出とその財源となる収入

特別会計の決算状況

特別会計は、特定の事業を行う場合に一般会計と区分して経理を行う会計で、国民健康保険特別会計のように義務付けられているものや、条例で設置されるものなどがあります。

会計区分	収入済額	支出済額
国民健康保険特別会計	90億 723万円	88億 839万円
介護保険特別会計	55億 5,980万円	55億 1,770万円
介護サービス特別会計	1,813万円	1,673万円
後期高齢者医療特別会計	12億 3,580万円	12億 3,458万円
公共下水道特別会計	30億 1,958万円	29億 4,407万円
農業集落排水特別会計	5,270万円	4,860万円
簡易水道特別会計	2,107万円	1,797万円
恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計)	4,780万円	325万円
合計	189億 6,211万円	185億 9,129万円

【歳入】の概要
歳入の内訳を主な目的別に見てみましょう。

●自主財源：市税などの自主財源が33.8%(△1.8%)と前年度より減少しました。市税の引き下げや、市債の発行抑制などを実施する。また、市民の生活の向上を図るため、民生費を増やすなど、歳入・歳出のバランスを調整する。このように、市民のみなさんの生活に貢献するよう努める。平成25年度決算の概要を公表する。市民のみなさんの生活に貢献するよう努める。

●依存財源：国や県などから入ってくるお金が66.2%(1.8%)と前年度より増加しました。地方交付税の増加や、国庫支出金の増加などが主な要因です。

石和中学校校舎等改築事業

合併特例債 借入額 2億6,780万円

安全・安心な教育環境を提供するために、老朽化した給食棟を整備しました。現在、校舎を改築中です。図は、完成後のイメージ図です。



本庁舎等耐震・改修事業

合併特例債 借入額 4億2,580万円

災害時の活動拠点となる庁舎などの耐震改修を行い、親しみやすく機能的な庁舎となるよう整備しました。写真は、完成後の市役所本館です。



合併特例債を活用した事業を紹介します

市では、新市の基盤整備を推進するため、合併特例債を活用し、さまざまな事業を行っています。

平成17年度から25年度までの借入状況は、次ページの表のとおりです。9年間で総額193億円を借り入れました。活用範囲が多岐にわたっているのが、本表からよくわかると思います。

今までの活用状況を見てみましょう。総額のうち約19%に当たる37億円が地域振興基金の原資となっています。

また、土木関係の市道整備や都市計画事業のほか、農業基盤の整備にも、毎年活用しています。

市では砂原橋架替事業や石和温泉駅周辺整備事業など、大型プロジェクト事業を実施しています。

合併特例債の利用期限は、法律改正に伴い、5年間延長され、平成31年度となりましたので、今後も積極的な活用が見込まれています。

しかし、合併特例債がどんなに財政的に有利な地方債であっても借金であることは言うまでもありません。将来世代に多額な負担を残さないことを常に心がけ、事業を厳選した上で、有効活用を図って行く必要があります。

平成25年度は、約31億円の合併特例債を活用しました。その事業内容を紹介합니다。



合併特例債とは…?

合併した市町村が、まちづくり推進のため新市建設計画に基づいて行う事業や基金の積立に要する経費について、合併特例期間内においてその事業費として借り入れることのできる地方債のことをいいます。事業費のおおむね95%を借り入れることができ、後年その償還金(元金と利子)の70%が普通交付税で措置されます。

合併特例債は次のような事業が該当となります。

- ①道路・橋梁整備などの合併町村相互の交流や連携を円滑にする事業
- ②未整備地区への施設整備など合併町村間の均衡ある発展に資する事業
- ③現存する類似の目的を有する施設を統合する事業
- ④新市の地域振興などのために設けられる基金の積み立て

農業基盤整備事業(土地改良事業)

合併特例債 借入額 2億2,290万円

市内各地域の農道や水路整備を毎年計画的に行っています。写真は、改良工事後の御坂町蕎麦塚内の農道です。



消防団施設整備事業

合併特例債 借入額 9,830万円

毎年、各地区の消防団施設の整備を図っています。老朽化した詰所の改築や消防車両の購入などを計画的に行っています。



砂原橋架替・取付道路整備事業

合併特例債 借入額 2億1,920万円

幅員の狭い砂原橋を新たに架け替えるとともに、周辺道路を整備して石和、境川、八代地区の交通網の円滑化を図ります。写真は、現在の様子です。



合併特例債の目的別借入状況

(単位:百万円)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	借入合計
福祉関係(保育所・学童施設)	51.5		86.4		214.8	88.0	144.3	282.9	111.7	979.6
農林水産業関係(農道・水路などの整備)	188.6	160.6	266.4	308.7	395.3	393.2	509.3	346.6	414.4	2,983.1
土木関係(道路・河川整備・都市計画事業など)	392.4	399.1	355.9	287.0	554.0	333.4	833.6	1,294.4	762.0	5,211.8
消防・防災関係(消防団施設・防災無線)	46.2	42.6	24.4	49.5	97.9	311.8	533.1	41.1	98.3	1,244.9
教育関係(小中学校施設)			57.2		27.6	633.6	455.5	394.5	421.2	1,989.6
保健衛生関係(浄水場出資債・ごみ処理施設負担金)				9.4	19.0	548.8	113.6	264.4	807.1	1,762.3
総務関係(庁舎整備などの総務費)			505.4				51.8	398.8	464.6	1,420.6
基金(地域振興基金)		950.0	950.0	950.0	835.0					3,685.0
借入総額(年度別)	678.7	1,552.3	2,245.7	1,604.6	2,143.6	2,308.8	2,641.2	3,022.7	3,079.3	19,276.9

御坂浄水場・送配水施設整備事業

合併特例債 借入額 6億9,250万円

御坂地区と石和・一宮の一部地区への安定した給水を実施するため、浄水場などの整備を行っています。写真は、現在の様子です。



スコレーセンター改修事業

合併特例債 借入額 7,090万円

生涯学習や文化活動をより一層推進するために、老朽化した拠点施設の改修を行いました。写真は、改修後の駐車場です。



財政の健全度を判断する指標を公表します

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、決算数値により算定された4つの指標である「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」および「将来負担比率」と、公営企業（上下水道など）の経営状況の健全度を算定した「資金不足比率」を公表することが義務付けられました。これらの指標により財政の早期健全化などの必要性が判断されます。

各比率が早期健全化基準を超えた場合は、「財政健全化計画」（公営企業の場合は「経営健全化計画」）を策定し、財政の健全化に取り組むこととなります。

平成25年度決算に基づく算定の結果、全ての指標が「健全」の基準内となり、健全な財政運営が維持されていると判断できます。

指標	比率の説明	早期健全化基準	算定結果(前年度)		
健全化判断比率	①実質赤字比率	一般会計の赤字額の程度を市の財政規模と比較して指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。	12.47%	— (—)	一般会計は黒字となっていますので、指標化されません。
	②連結実質赤字比率	一般会計、特別会計および公営企業会計の赤字額や黒字額を合算して、市全体の赤字の程度を指標化し、財政運営の健康度を示す比率です。	17.47%	— (—)	全ての会計において黒字となっていますので、指標化されません。
	③実質公債費比率	一般会計の借入金の返済額と公営企業会計や一部事務組合の借入金の返済金のうち、一般会計から支出されたと認められる額の合計額を市の財政規模と比較して指標化し、資金繰りの安全度を示す比率です。	25.0%	14.2% (14.2%)	前年度と同値で、早期健全化基準の「25.0%」を下回っていますので、健全と言えます。
	④将来負担比率	市の借入金や将来負担すべき額から市の貯金などを差し引いた額を市の財政規模と比較して指標化し、今後の財政を圧迫する可能性を示す比率です。	350.0%	74.4% (75.7%)	前年度から1.3%減少し、早期健全化基準の「350.0%」を下回っていますので、健全と言えます。
⑤資金不足比率	上水道、下水道など公営企業の資金不足を指標化し、経営の健康度を示す比率です。もし、ある公営企業会計で赤字が出たときには、赤字額をその公営企業の料金収入の規模と比較して、指標化します。	20.0%	— (—)	全ての公営企業会計とも赤字となっていないので、指標化されません。	

健全化判断比率・資金不足比率の対象となる会計の範囲

※4つの財政健全化判断比率と資金不足比率の算定に当たっては、対象となる会計などがそれぞれ異なります。算定の対象となる各会計などは、以下のとおりです。

区分	会計名・団体名	財政健全化判断比率	資金不足比率
一般会計など	一般会計	①実質赤字比率	
公営事業会計	特別会計 国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、介護サービス特別会計、後期高齢者医療特別会計	②連結実質赤字比率	
	公営企業会計 地方公営企業法が適用されない会計 公共下水道特別会計、農業集落排水特別会計、簡易水道特別会計	③実質公債費比率	
	地方公営企業法が適用される会計 水道事業会計、春日居地区温泉給湯事業会計	④将来負担比率	⑤資金不足比率
広域連合・一部事務組合 (笛吹市が加入している団体)	山梨県後期高齢者医療広域連合、山梨県市町村総合事務組合、東八代広域行政事務組合、山梨県市町村議会議員公務災害補償等組合、東山梨行政事務組合、甲府峡東地域ごみ処理施設事務組合、東山梨環境衛生組合、峡東地域広域水道企業団、釈迦堂遺跡博物館組合		
第三セクターなど (笛吹市が関係する団体)	公益財団法人 ふえふき文化・スポーツ振興財団 など		



基金(貯金)残高の状況

笛吹市には現在、一般会計に14種類の基金があります。基金というのは、家計でいうと預貯金のことです。決算剰余金が生じた場合などには基金に積み立てを行います。

また、臨時的な出費や財源不足が見込まれる場合には、取り崩しを行い、事業費に充当しています。平成25年度では、財政調整基金に4億108万円を積み立てることができました。

下表は、前年度末および平成25年度末の主な基金残高(預貯金残高)を示しています。

基金の名称	平成24年度末	平成25年度末	増減額
財政調整基金	34億 452万円	38億 560万円	4億 108万円
減債基金	17億 8,598万円	17億 8,654万円	56万円
公共施設整備等基金	36億 3,333万円	36億 4,151万円	819万円
地域振興基金	48億 4,420万円	48億 5,862万円	1,442万円
その他特定目的基金	20億 5,154万円	20億 4,882万円	△272万円
合計	157億 1,957万円	161億 4,110万円	4億 2,153万円

※合計は現金および証券残高です。
※土地開発基金(土地・現金)と北野福祉基金(株券)については、基金総額には含んでいません。

市債(借金)残高の状況

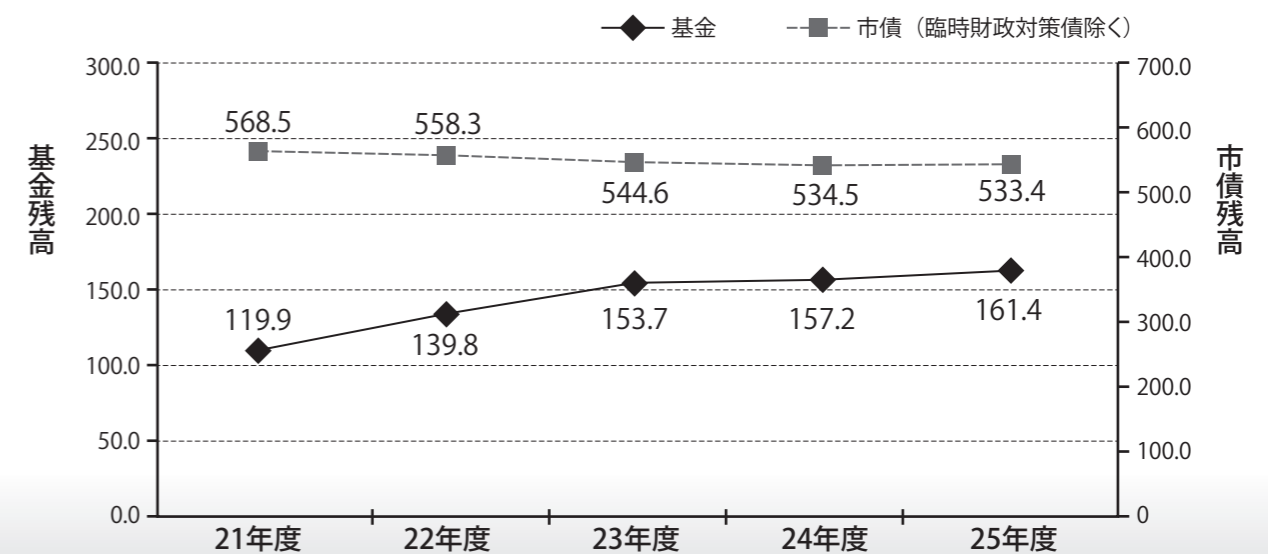
市債(地方債)とは、学校や公園・道路・上下水道などの公共施設の整備や災害復旧などの公共事業の財源として、複数年に渡り、国や金融機関などから借り入れるお金です。市債は、単年度の財政負担を軽減し、長く利用する施設では、借入金を長期間にわたり償還することにより、将来、その施設を利用する人にも公平に負担していただくという世代間の負担の公平性を保つ役割をもっています。

平成25年度末の市債残高は、一般会計分が403億1,300万円、公営企業会計分(上下水道)が279億543万円で、市全体では682億1,843万円となります。

なお、臨時財政対策債は、国の財源不足による普通交付税の補てん措置として発行が認められていることから、市債額から除くと、総額では533億3,910万円となります。

会計名	平成24年度末	平成25年度末	増減額
一般会計	390億 8,598万円	403億 1,300万円	12億 2,702万円
うち合併特例債	124億 1,085万円	143億 2,605万円	19億 1,520万円
うち臨時財政対策債	139億 6,703万円	148億 7,933万円	9億 1,230万円
公営企業会計	283億 3,547万円	279億 543万円	△4億 3,004万円
上水道・簡易水道	77億 1,126万円	82億 8,039万円	5億 6,913万円
下水道	206億 2,421万円	196億 2,504万円	△9億 9,917万円
市債残高合計	674億 2,145万円	682億 1,843万円	7億 9,698万円
臨時財政対策債を除く市債残高合計	534億 5,442万円	533億 3,910万円	△1億 1,532万円

基金および市債残高の推移(単位:億円)



平成25年度実施事業

平成25年度にも多くの事業を実施しました。主な事業の内容について、一部を写真で紹介します。



観光宣伝事業・農産物等消費拡大宣伝事業

「もてなしの心があふれる観光地づくり」の実現を目指し、観光資源を活かしたイベントや広告宣伝活動などを行い、笛吹市の知名度の向上と本市特産農産物のPR活動などを積極的に行いました。



地域間交流事業

農村環境への理解や関心を深めてもらい、将来的には二地域居住や移住者の増加を図るために、首都圏在住者などを対象に地域の特性を活かした農村交流活動や農業体験を行いました。



友好都市親善交流事業

国際友好都市であるドイツのバート・メルゲントハイム市などによる東日本大震災義援活動への御礼を兼ね交流促進のため、公式使節団による国際交流を行いました。



花と緑のまちづくり推進事業

花と緑による快適な環境づくりを目指し、植栽や管理育成を行う団体などに花苗を配布しました。



地域介護予防活動支援事業

高齢者の閉じこもりや転倒などを予防し、より健康で活動的な生活を送ることを目指すために、地域の保健センターや地区公民館などで体操講座などを行いました。



国民文化祭事業

富士の国やまなし国民文化祭2013において、主催事業として、「文芸祭俳句大会」、「現代詩の祭典」および「いにしへの華ーやまなしの縄文展」などを開催しました。